DEC 2015、　№.4

日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第37回日本創造学会研究大会開催報告

わくわく大学きらきら企業の創造力

開会宣言をする
樋口克次
実行委員長

樋口健夫副実行委員長

徐方啓
副実行委員長

知と汗と涙の
近大流コミュニケーション戦略

特別講演
近畿大学広報部長世耕石弘氏

輝く企業の
ＣＳＲと創造性

基調講演
元オムロン㈱会長立石信雄氏

本年10月3日・4日の両日、大阪経済大学で第37回研究大会が開催されました。テーマは「わくわく大学、きらきら企業の創造力」であり、両日にわたり、特別講演と基調講演を柱として、７つの会場での研究報告、そして最後には３会場で魅力的なワークショップが開催されました。50名を超える会員参加者を始め110名を超える方々のご参加を得て、盛況のうちに終えることができました。

１日目の特別講演では、近畿大学より広報部長の世耕石弘氏をお迎え、近畿大学の広報戦略についてお話しいただきました。近畿大学が日本最大の受験生を集めるに至った創造的で革新的な広報戦略に参加者も圧倒されました。大切なことはその戦略が日々更新され、発展していることでした。ウェブを利用した願書提出のみならず、それに新しいイベントや宣伝を重ね合わせ、動きある近大、期待を抱かせる近大を描かれていたように感じました。

２日目の基調講演では、オムロン株式会社より元会長の立石信雄氏をお迎えし、オムロンのＣＳＲの取り組みを中心にお話しいただきました。オムロンは2014年度に東証の企業価値向上表彰の「大賞」を受賞し、企業社会のみならず全国で高い評価を得た企業です。単なる企業の社会的責任にとどまらず、統合報告書として財務情報のみならず非財務の社会的な情報も視野において広報活動を展開しています。立石氏のご報告にもあった「障害者雇用」の職場や仕事は、オムロンはユーザーに開かれた社会にとどまらず、社会の様々な層にも開かれた企業であると感じました。語られる仕組みや組織のあり方、そして生産される商品などの独創性や工夫に多くの聴衆が目を見張りました。

両日にわたり、７つの会場で28本の多彩な研究報告が行われました。特定の縦割り的な専門分野にとらわれず、様々なジャンルの専門報告が、「創造性」を核心として提起されました。主催校からも教育行政や学内喫煙マナーの創造的な取り組みなどが報告されました。

２日目の最後は３つの会場でワークショップが開かれました。各会場では、「車いすとスマホを使ったリアルゲーム」、「モニターを利用し双方向講義」、そして「アイデアマラソン発想システム」といったテーマで開催されました。

大会開催に当たりましては、本学並びに総務・広報部、そして研究担当の皆様の温かいご支援をいただきました。お礼申し上げます。最後まで多数の皆様の参加を得ることができ、盛大に研究大会を開催することができましたこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

（大会実行委員長：樋口克次）

WORKSHOPの輪

大会２日目の午後、参加者自由選択型のワークショップが開催されました。

３種類のワークショップが用意されたこの企画は、当学会の研究大会では新しい試みでした。今後も参加者にとって魅力的な企画を準備していきたいと思います。

●WORKSHOP 1

車いすとスマートフォンを使った
リアルゲームのデザイン
講師：木原宏典氏、永井由佳里氏

ワークショップは熱気に溢れ、地方での開催にも関わらず、参加者の皆さんは最後まで熱心に参加してくださいました。

新たな体験を通して、新しい発見が出来たことと思います。

●WORKSHOP 3

思考を書き留める習慣
人生を変えるアイデアマラソン
発想システム
講師：樋口健夫氏

●WORKSHOP 2

モニターを利用した双方向討論の提案
講師：樋口克次氏

発表モザイク風景 2015

本年度は28名の皆様の研究発表が行われました。

学 会 賞 表 彰

2015年10月４日、研究大会総会会場にて、2014年度研究大会発表賞の表彰式が執り行われました。

第36回研究大会発表賞

受賞者　林美都子　所属：北海道教育大学

発表論文タイトル：　理論力と創造力

櫻井理事長との記念撮影

第36回研究大会発表学生賞

受賞者　古川洋章

所属：北陸先端科学技術大学院大学

発表論文タイトル：モチベーション維持に着目したフィードバック視覚化機能をもつ分散ブレインストーミング支援システムの提案

※古川氏は表彰式に出られなかったため、郵送で表彰状と記念品が送られました。

※2014年度Vol.18論文賞・2013-2014年度出版著作賞は、学会賞委員会運営の都合により、2015年12月5日に開催された学会賞委員会にて以下の方々の受賞が決定しました。

論文誌Vol.18（2014年度版）論文賞

論文賞　五郎丸秀樹　所属：和歌山大学

共著者　伊藤淳子　宗森純　由井薗隆也

【論文タイトル】

タブレット端末を用いた分散協調型KJ法支援グループウェアにおける画面サイズがKJ法のグループ編成に及ぼす影響

選考評価

普及したタブレット端末上で知的作業を行うことが多くなってきた。KJ法のような発想会議の場合、その画面サイズが多量のラベルの扱いを困難にしている可能性がある。著者らはタブレット端末の二画面を結合できるKJ法支援グループウェアを試作し、画面サイズがラベル数によってどう変わるかを評価実験した。評価法はこの分野で良く使われる八木下法やステューデントt検定を用いた。画面の見やすさ、大きさ、可読性等の観点から、グループ編成（島）名の評価においては、二画面の方が一画面より高いという興味深い結果を得た。よって本論文は論文賞に値する。　（学会賞委員：國藤進）

論文賞　烏蘭其其格

所属：北陸先端科学技術大学院大学

共著者　前之園信也　國藤進　藤波努

【論文タイトル】

実験系ラボラトリーの観察・実験活動におけるメタ認知の調査

選考評価

本研究は、研究テーマに真正面から向かう研究者の卵達、実験系の大学院生（修士、博士）101名のメタ認知の仮説、検証という暗黙的であるが認知心理学的、教育学的な知見創出に貢献した論文である。特に、メタ認知4つの因子を明らかにし、第2因子「他者との関わりによる反省的思考」において、孤独になりがちな研究生活の中でも、助教の先生、学生との意見交換やプレゼンテーションがメタ認知の活発化に寄与したことを析出した。この成果をさらに高め、他の分野でも実験、検証できる可能性がある論文と判断し、論文賞にふさわしい論文と評価する。　（学会賞委員：豊田貞光））

2013-2014年度出版　著作賞

啓蒙書　編著部門　前野隆司

書籍名：システム×デザイン思考で世界を変える

選考評価

本書は、読む人が誰であっても、非常に楽しい本である。初心者から専門家まで、本書には発見があるだろう。そのようにこの本が創意と工夫で編集されていることを感じる。素晴らしい本である。

内容は特に実践に重きを置いていること、またその実践も慶応SDMで実証されていることが読者には大切だと思う。明るい慶応SDMのクラスの雰囲気が頁に溢れている。大いに一読をお薦めする。更に応用編を期待したい。

（学会賞委員：樋口健夫）

学術書　共著部門　宗森　純

書籍名：アイデア発想法と協同作業支援

選考評価

本著はアイデア発想法のサーベイを踏まえて、協同作業支援グループウェアや発想支援システムの構築を目指す研究を、第一線の研究者三人がまとめた優れた教科書である。内容もマルチメディア、五感通信、ユーザインタフェース、WWW、エンターティメントと多岐に渡る最先端技術を駆使する協同作業支援システムの研究開発が網羅されており、豊富な文献がその分野の研究者を目指す人々に有用である。特に、アイデア発想法の実習、その評価法の提案、著者らの開発したグループウェアの評価方法の章が秀逸である。以上の理由により、著作賞に値する。　（学会賞委員：國藤進）

2015年度第37回研究大会発表賞

2015年12月5日の学会賞委員会にて、第37回研究大会発表賞が決定しました。表彰式は2016年度総会時に行われます。

研究大会発表賞　澤聡美　所属：富山大学
発表テーマ：コミュニケーション能力を向上させるための創作ダンスのデザインに関する研究

研究大会発表賞　西尾未希　所属：トヨタ紡織㈱/慶應義塾大学大学院
発表テーマ：感動経験構造を用いたコンセプト設計方法論

研究大会発表賞　片岡敏光　所属：㈱パットブレーン/日本経済大学大学院価値創造型企業支援研究所
発表テーマ：イノベーションを推進する人財と組織

研究大会発表学生賞　谷岡遼太　所属：和歌山大学
発表テーマ：研究室全員で取り組むアイデアマラソン

研究大会発表学生賞　原田祥　所属：北陸先端科学技術大学院大学
発表テーマ：創造技法と3Dプリンタを使用した「ものづくり」の手法の研究

研究大会発表賞・特別貢献賞　上田　宏　所属：元創造開発イニシアチブ
発表テーマ：30年前の自撮り棒発明と最近の自撮り棒流行

上田宏さんへの特別貢献賞の授与について

現在、世界中で大ヒットしている自撮り棒は、我が学会の上田宏さんが発明したものです。これは「アメリカ・タイムズ紙で「2014年の発明品ベスト25」にまで選ばれました。上田さんは今から32年前の1983年、ミノルタカメラの技術時代に発明しました。もちろん特許はとっていましたが、その特許も2003年には切れたので、見返りは一切ないとのことです。韓国から創造学会の事務局に連絡があり、上田さんを紹介しました。すると「元祖、自撮り棒発明者」として上田さんは、韓国ばかりでなく日本のテレビ、新聞など数々のメディアに引っ張りだこになり、一躍時の人になりました。上田さんは、長年にわたり創造学会の会員として貢献してきました。この機会に、上田さんに「学会特別賞」を授与することが理事会で決定しました。上田さん、おめでとうございます。

（学会賞委員：高橋誠）

日本創造学会西日本支部発足

日本創造学会西日本支部
支部長　北門達男（近畿大学教授）

今年の研究大会の初日、日本創造学会西日本支部が正式に発足しました。理事会に支部長と指名されたことを栄誉あることと存じますが、責任も重く感じています。

私は発想法の研究と教育を長年にわたって行っており、日本創造学会に入会したのはそれほど長くありませんが、拝命した以上、一生懸命頑張る所存です。

38年の歴史もある日本創造学会が初めて支部を作ったことそのものは、早いとは言えませんが、より多くの会員特に地方におられる会員に交流・発表の場を提供する主旨に全く賛同致します。来年から以下の活動を行いたいと思います。

まず、西日本支部年次発表会を開催します。学会の全国大会は毎年秋に開催することになりますので、西日本支部発表会は毎年春に開催します。そして、創造性開発セミナーを主催します。どの活動も支部メンバーが中心として行われますが、東日本におられる会員にもオープンします。

今後共どうぞ宜しくお願い申し上げます。

▲▼▲ 2015年9月21日クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

『システム×デザイン思考ワークショップ体験 』

於：慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎

講師：前野隆司　日本創造学会理事・慶応義塾大学大学院SDM研究科委員長・教授

講師：保井俊之　日本創造学会会員・慶應義塾大学大学院SDM研究科特別招聘教授・九州工業大学客員教授

2015年9月21日に、「システム×デザイン思考ワークショップ体験」と題し、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎にて、日本創造学会第39回クリエイティブサロンを行なった。

講師は前野隆司（日本創造学会理事／慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長・教授）と保井俊之（日本創造学会会員・慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授・九州工業大学客員教授）である。

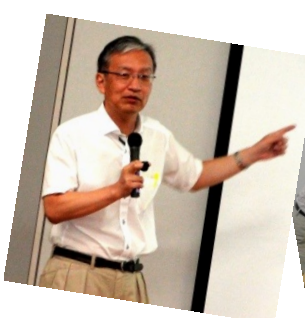
13時から18時までの5時間のワークショップという長丁場であったが、80名を超す日本創造学会会員・非会員が参加し、非常に盛り上がった熱気あふれるワークショップ体験となった。

具体的には、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科で行なっているシステム×デザイン思考に基づくイノベーション教育を紹介し、体験して頂いた。

まず、前半の前野のワークショップでは、イノベーション、協創、テザイン思考、システム×テザイン思考等について説明した後に、ブレーンストーミング、親和図法、構造シフト発想法を6～7名のグループごとに体験した。

後半の保井のワークショップでは、AIに基づくインタビュー、かけ算デザイン、プロトタイピング（スキット）を体験した。

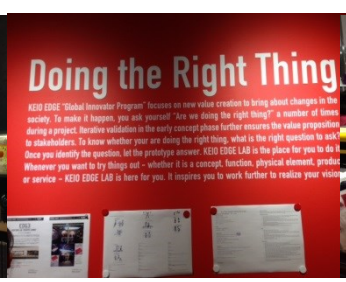
事後アンケートの集計結果は極めて好評であり、各自何らかの気づきを持ち帰って頂けた様子がうかがえた。内容については参考図書『システム×デザイン思考が世界を変える』（日経BP 2014年）にも掲載しているのでご参照いただきたい。　（報告：前野隆司）



KEIO EDGE LAB “CREATIVE LOUNGE” 見学会

ワークショップ後、文科省EDGEプログラム（文部科学省グローバルアントレプレナー育成促進事業、Enhancing Development of Global Entrepreneur Program)の援助により日吉駅前の協生館2階に開設しているKEIO EDGE LAB ″CREATIVE LOUNGE″の見学会も行なった。

3Dプリンター、レーザーカッター、Tシャツプリンター等を備えており、様々な人が集ってプロトタイピングを行なうことによって、人々の創造性が発揮される場を目指しており、一般公開に向けて準備中である。



2016年新春企画

第41回クリエイティブサロン開催のお知らせ

研究会担当理事　田村新吾

日本創造学会では2014年度よりクリエイティブサロンを開催し、来年3年目を迎えます。2016年の新春企画の第41回クリエイティブサロンを下記のように開催致します。会員・非会員を問わず、どなたでも参加できる研究会です。多くの皆様の参加をお持ちしております。

開催日：2016年1月9日（土）13：00～18：00　会場：日本経済大学大学院1階246ホール

第1部
講演会講師：河本達毅　氏

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室

講演テーマ：
今、求められるアクティブ・ラーニングとは

初等中等教育から高等教育まで通じて要請される「アクティブ・ラーニング」 は、とかく言葉だけが独り歩きし、新奇でスキルフルな手法や、高度なＩＣＴ技術等を想起させ、その本来の趣旨を踏まえないままに議論されることが多く、 教育現場を混乱させているように感じる。

そのため、とりわけ大学教育において、「アクティブ・ラーニング」がどのよう な文脈の中で語られ、何を実践し、どのような効果が期待されているのか、本来の目的に立ち返り、改めて概括する必要がある。

そこで、教育政策上の要請を踏まえつつ、「アクティブ・ラーニング」に何が求 められ、プログラムレベル、個々の授業科目レベルにおいて、どのよう に実践 すればよいのかを考察し、教育に携わる皆様の議論の契機とされるよう、事例等を交えながら話題提供を行いたい。

第2部
WS講師：樋口健夫氏

アイデアマラソン研究所所長
日本創造学会理事

WSテーマ：
人生を前向きに変えるアイデアマラソン発想システムのワークショップ　–アクティブ・ラーニングの具体的手法の一つの提案–
（付属　トーランス式創造性思考テストの紹介）

樋口健夫（博士　知識科学）が、1984年に独自に開発し、現在まで32年間継続してきた純国産アイデアマラソン発想システムは、幼稚園 か ら一般社会人まで、広く実践者が増えています。また大学の研究室全体でアイデアマラソンを実行している ところが急増しています。今回は、アイデアマラソンの考案者みずから、その原理を語り、実際にいかに開始するかを説明する予定です。多数の企業や研究所で採用されてきたアイデアマラソンは、「思考する課題を思考 し、即ノートに書き留めることを、毎日実践するシンプルな習慣」でありますが、きわめて奥が深く、自己の才能を引き出し、すべての発想法、開発、発明技法 の基礎になるものです。今回、参加者自らが、クリサロの日からアイデアマ ラソンを開始し、学生たちを指導することができるように、充実した内容の ワークショップの特別セミナーになっています。また、アイデアマラソン研究所 が、日本での実施権を得たトーランス式創造性思考テスト（TTCT）の公式説明も 行われる予定です。ご期待ください。

《スケジュール》

12：30	開場
13：00-14：00	第1部講演会
14：00-14：30	質疑応答
14：30-15：00	休憩・開場整備
15：00-18：00	第2部ワークショップ（質疑応答含む）
18：30～	別会場にて懇親会

会　場：　日本経済大学大学院1階246ホール
所在地：〒150-0031　東京都渋谷区桜丘町25-17
　　JR渋谷駅より徒歩3分
参加費：　会員/無料　非会員/参加費1000円
　　※懇親会（希望者）は4,000円程度の実費

※参加希望の方は、学会ホームページより、メールでお申し込み下さい。
［氏名/所属/会員or非会員/懇親会参加の有無］

経路「渋谷駅南改札西口⇒歩道橋対面へ⇒国道246号線沿」

●●●2016年度学会誌（20号）論文投稿の募集●●●

当学会は通年査読なのでいつでも投稿できます

編集委員長　西浦和樹

１．2016年9月末までに投稿され、12月末までに採録された論文が20号学会論文誌（2017年2月発刊）に掲載されます。ご投稿の際には、学会ＨＰ「論文を投稿したい方へ」に記載されている論文投稿要領（論文投稿規定および論文執筆要綱）をご覧ください。なお、この論文投稿要領をクリアしていない論文は、受理できない場合があります。過去の論文誌の掲載論文例でフォームを確認するのが便利です。なお電子投稿（Wordファイルが前提）を歓迎します。また大多数の会員が日本人なので、投稿は原則として邦文としますが、日本語を母国語としない投稿者のために、英文も許容します。

◇論文発送先：〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9－1－1
宮城学院女子大学　発達臨床学科　西浦和樹
（電子投稿時　nishiura@mgu.ac.jp）

２．日本創造学会では、2016年から創造性教育の今日的課題を扱うSIG（Special Interest Group）を立ち上げることになりました。SIGの活動は、本学会が重要研究と位置づける課題を解決することを目的としています。2016年は創造的な教育方法の領域「アクティブ・ラーニング」についての研究を進め、年間を通して活動していく予定です。

アクティブ・ラーニング（育成すべき資質・能力を育むための課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び、2020年度の学習指導要領から実施予定）に関連する論文を募集します。論文の評価の観点は以下の通りです。

（アクティブ・ラーニングの一般的特徴として挙げられる点）

(a)学生は、授業を聴く以上の関わりをしていること
(b)情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれていること
(c)学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること
(d)学生が自分自身の態度や価値観を探求することに重きが置かれていること
(e)認知プロセスの外化（問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること）を伴うこと

※文科省教育課程部会（第95回）配布資料を参照

アクティブ・ラーニングの一般的特徴が含まれる教育実践は、創造的問題解決（教育方法）や創造的思考（発散的思考や収束的思考）などの教授法を含み、学習者の発想を豊かにすると仮定します。このような教育実践論文を多数募集します。

３．査読プロセスの公平性を高めるために、著者が誰であるか、誰の指導を受けているかをマスキングします。したがって、投稿時に当事者が特定できる文献の著者名・所属・謝辞文献は消去し、参照の文言も細心の注意を払ってください。電子投稿の場合、マスキングした論文とマスキングしていない論文の各１セットが必要です（郵送投稿の場合は、マスキングした論文３セット、マスキングしていない論文１セットの計４セットをご送付ください）。

４．論文発送と同時に、編集委員長にe-mailを送り、下記の５点を通知してください。
①論文タイトル、②著者名、③所属、④論文の仕上がり枚数、⑤緊急連絡先電話番号
なお、送信メールアドレスはご連絡に使用しますので通常使用されるものでお願いします。
◇西浦メールアドレス　nishiura@mgu.ac.jp

５．論文掲載料は、第１著者が正会員の場合3万円、学生会員の場合2万円で、掲載決定時に請求します。採録時に規定枚数（２０ページ）を超過した場合の超過掲載料は、１ページにつき５千円とします。

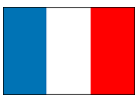
６．投稿論文が採録され、学会誌掲載前で採録決定証明書が必要な方は申し出てください。学会編集委員会で証明書の発行を随時行います。

○○○ 2016年創造性関連主要国際会議 ○○○

海外交流担当理事：徐方啓・樋口健夫

2016年に開催される主要な創造性関連の国際会議を紹介致します。参加希望者の方は、自身にて直接主催者へのアクセスをお願いします。

1月21-22日 第18回国際デザイン創造性会議 開催地：フランス パリ
主催：ICDC 会費：€500
https://www.waset.org/conference/2016/



4月13－17日 第14回CREA国際会議 開催地：イタリア セストリ・レバンテ
主催：CREA 会費：€2,330（宿泊代込み、シングルルーム4泊）
http://www.creaconference.com/en/

4月28-29日 第4回国際イノベーションとアントレプレナーシップ会議
開催地：カナダ トロント 主催：Ryerson大学 会費：£365 学生：£210
http://academic-conference.org/icie/icie2016/icie16-home.htm

5月18-21日 第13回ICIE会議「教育と心理学のエクセレンス：創造性とイノベーションおよび研究と実践の新しい展開」開催地：クロアチア Rijeka 主催：Rijeka大学
会費：£350 http://www.icieconference.net/index.php/icie-2016/

5月19－20日 第18回国際創造性とイノベーション・リーダーシップ会議
開催地：トルコ イスタンブール 主催：ICCIL 会費：€500 院生：€400
https://www.waset.org/conference/2016/05/istanbul/ICCIL

6月14-19日 第61回国際会議 開催地：アメリカ ニューヨーク州バッファロ
主催：アメリカ創造教育財団 会費：＄1,450 院生：＄500
http://www.creativeeducationfoundation.org/

6月21-24日 国際ナレッジ・イノベーションと企業会議 開催地：ドイツ ベルリン
主催：KIE 会費：€450 院生：€400
http://www.kiecon.org

9月15-16日 第11回ヨーロッパイノベーションとアントレプレナーシップ会議
開催地：フィンランド ユバスキュラ 主催：JAMK応用科学大学 会費：£365 学生:£210
http://academic-conference.org/ecie/ecie2016/ecie16-home.htm

10月23-24日 第8回アジア・太平洋イノベーションとナレッジ・マネジメント会議
開催地：日本 神戸 主催者：香港理工大学・日本知的資産経営学会 会費：未定
http://ikmap2016.com

10月27-29日 創造性と都市国際会議 開催地：オランダ アムステルダム
主催：アムステルダム大学 会費：未定
http://achi.uva.nl/achi-con-2016

11月10-12日 KICSS2016 （Knowledge Information & Creativity Support System
：知識、情報、創造性支援システム国際学会）
開催地 インドネシア ジョグジャカルタ（予定）
連絡先 樋口健夫 info@idea-marathon.net ※ KICSS2016は詳細が決まり次第再度ご案内します

訃 報

2015年12月1日、ヨーロッパ創造性とイノベーション協会（EACI）前会長、オランダデルフト工科大学教授ジャン・ビュイジス博士がすい臓がんのため逝去されました。享年67歳でした。

ビュイジス博士は1948年に生まれ、1976年にデルフト工科大学工学部卒業（工業デザイン専攻）。1984年、同氏は「Innovation & Intervention」をテーマにした論文で同大学工業デザイン工学部から第一号の博士学位を取得、翌年、正式に出版されたこの論文は、オランダの「ベストマネジメントブック賞」を受賞しました。

1986年にビュイジス博士は、母校で工業デザイン学部教授に任命されました。それ以来、彼の研究室から300人以上の学部生と15人の博士が輩出されました。優れた教育・研究の実績に対し、デルフト工科大学は、ビュイジス教授に「2007年度最優秀教授賞」を授与しました。

ビュイジス教授は、オランダにおける創造性研究の推進者の1人でした。オランダ創造学会、そしてヨーロッパ創造とイノベーション協会の設立と発展に大いに貢献され、2001年から4年間同協会の会長を務めました。

ビュイジス教授の冥福をお祈りします。 （文：徐方啓 写真：デルフト工科大学HP）

◆ ◆新入会員紹介◆ ◆

個人情報が記載されてるため、Web版では削除しました

▲▼▲2015年度総会報告▲▼▲

2015年10月３日、研究大会第１日目に会員総会が開催されました。総会では２０１４年度事業・決算報告、監査報告、２０１５年度事業状況、２０１６年度事業予定、予算等が理事会より提示され、会員の皆様の賛成多数を受け、可決しました。

●不達メールが急増しています！●

退職・転職・引っ越し・プロバイダ変更等によりメールアドレスが変わった方は、新しいアドレスから、
jcs-info@japancreativity.jp
にご連絡をお願い致します。
学会からの各種お知らせは、登録のメールアドレスにお送りしております。

事務局メッセージ

第37回研究大会は、地方開催にもかかわらず、多くの方々に参加いただけ、大いに盛り上がりました。企画に尽力頂いた実行委員の皆様、参加者の皆様、多大なご協力いただいた大阪経済大学、そして学生の皆様、本当に有難うございました。

この盛り上がりを次年度の沖縄大会につなげて行きたいと思います。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2015年12月発行（№4）
日本創造学会事務局
発行人 ：櫻井敬三
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高
4－7－6－816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp